

所在地 宮城県宮城郡利府町加瀬字郷楽、森合字後山地内

立地環境 松島丘陵から派生する標高 45 ～ 70 m の支丘陵上

発見遺構 掘立柱建物、竪穴建物、土器埋設遺構、焼土遺構、溝

年代 8 世紀中葉～10 世紀初頭

遺跡の概要

郷楽遺跡は仙台平野北端に相当する利府町の南東部に位置し、松島丘陵から南側へ派生する標高 45 ～ 70 m の支丘陵尾根上に占地する（第 1 図）。遺跡の周囲には 724 年に創建された陸奥国府である多賀城跡が 2 km 南に存在し、また 3 km 北西の利府町春日地区には大沢窯跡・硯沢窯跡をはじめとした生産遺跡群が展開している。さらに国府津である塩竈は 2 km 東に位置するという立地である。

郷楽遺跡の古代遺構群は、Ⅰ～Ⅳ期に区分されている（文献 2）。以下に各期の様相について概略を記す。

1. 遺構の変遷

Ⅰ期

Ⅰ期は 8 世紀中葉～後半にかけての遺構群である（第 3 図）。この時期は竪穴建物が中心で、第 2 図 A・C・D の広範囲に分布することが特徴である。また少数ながら掘立柱建物も存在しており、桁行 3 間・梁行 2 間の SB1・2 の南北棟はほぼ真北方位でつくられている。この時期の出土遺物では陸奥国分寺創建瓦のほか硯沢窯跡群の須恵器が豊富に出土し、金属製品も多くみられる。特に 107 号竪穴建物からは馬具のほかに刀子、鉄鏝が多く出土している。

Ⅱ期

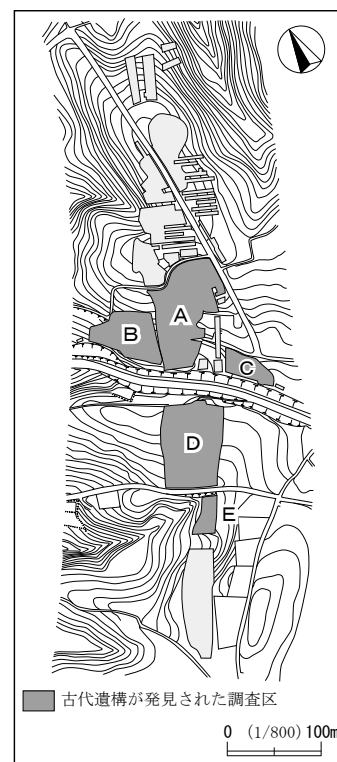
Ⅱ期は 8 世紀末葉の遺構群である（第 4 図）。この時期の遺構群もⅠ期同様の広がりを見せる。竪穴建物と掘立柱建物によって構成されるが、掘立柱建物が占める割合がⅠ期に比べると増加する。掘立柱建物の規模は桁行 4 間・梁行 2 間の東西棟である SB23 が最大である。

Ⅲ期

Ⅲ期は 9 世紀前半～後半にかけての遺構群である（第 5 図）。全体としては掘立柱建物が急増する傾向にあり、竪穴建物から掘立柱建物



第 1 図 郷楽遺跡の位置



第 2 図 調査区配置図
(文献 3 から作成)

への建替えや、掘立柱建物の建替えも増加する。掘立柱建物の分布は第2図A南側とBに集中しており、土地の利用形態が大きく変化することから、当該期に居宅空間が確立したと考えられる。なお、この時期の主屋はSB20・22とみられ、副屋となる建物の多くは主屋と棟方向が同じとなる（第7図）。

Ⅳ期

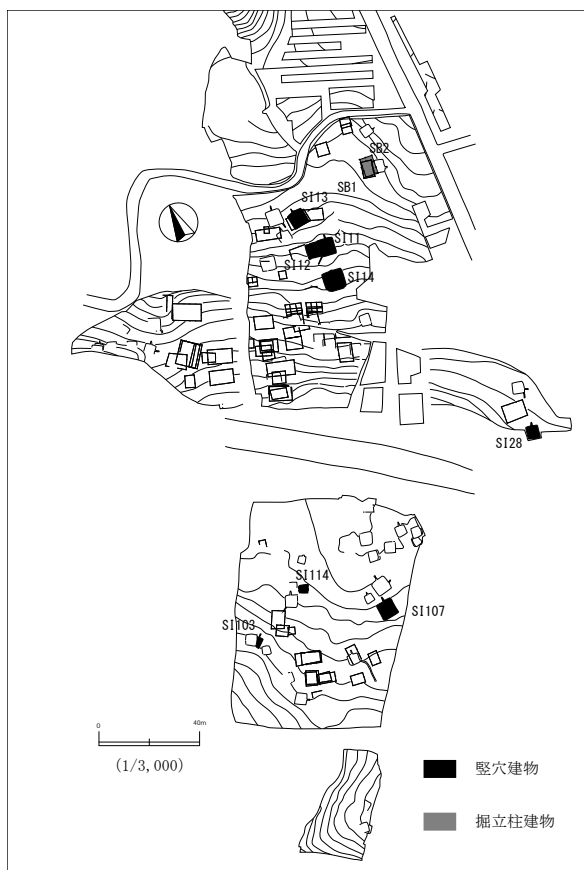
Ⅳ期は9世紀後半～10世紀初頭にかけての遺構群である（第6図）。掘立柱建物はⅢ期と同様に第2図A南側とBに集中し、一方で広範囲に分布していた竪穴建物は丘陵の低い部分（第2図D・E）にほぼ集約される。掘立柱建物は桁行5間・梁行3間で東西妻を揃え、近接して南北に並ぶSB39・40が双堂の主屋と目される。そのほか副屋と目される建物群は桁行5間以上の規模となるものが多く、また4間の建物も5間と同程度の規模となるものがあるなど前段階と比べると建物の大型化が顕著となる。副屋群の配置は、双倉と考えられるSB30・31の総柱建物を上辺とし、主屋の東側で「コの字」状に配置される（第8図）。なお、Ⅳ期の建物であるSB8・30の内外などでは赤焼土器を用いた土器埋設遺構が発見されているが（第9・10図）、Ⅳ期の開始時期が9世紀後半であることを考慮し、これらの遺構が貞観11年（869）の陸奥国大地震と関連する地鎮遺構の可能性も示唆されている（文献4）。

まとめ

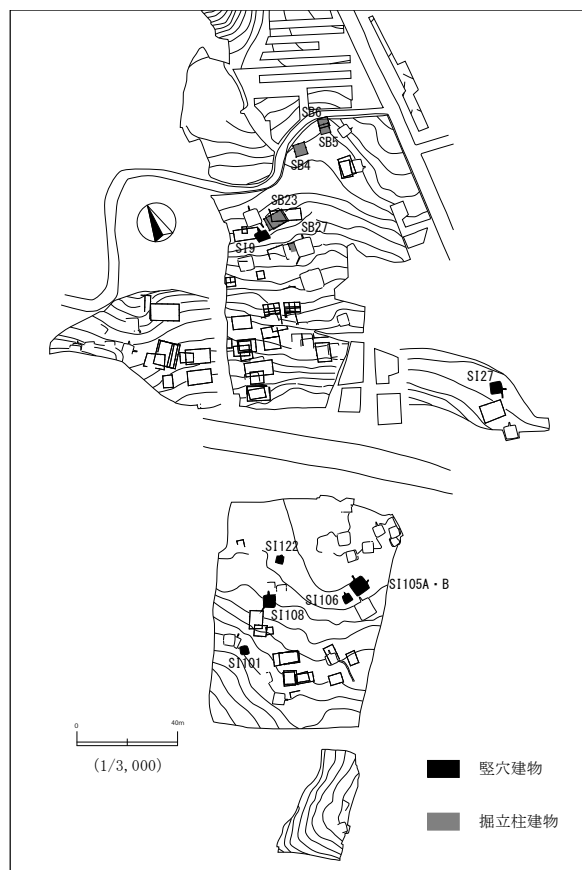
郷楽遺跡の周辺には、大沢窯跡・硯沢窯跡に代表される春日窯跡群など、多賀城及び城下の維持・運営を下支えする生産遺跡が存在し、遺跡内においてもこれらの生産遺跡で製作された製品が多数出土している。このため郷楽遺跡で発見された遺構群については、生産遺跡を管掌するといった有力者に関するものと理解されている。このうちⅢ期とⅣ期の主屋と、倉庫・掘立柱建物を中心とする遺構群のあり方は、地方における有力者居宅の実態の一例を示すものとして重要な成果となっており、近年村田晃一氏によって建物の規模及び配置の変遷を念頭に置いた新たな見解（第7・8図）が提示されている（文献4）。

関連文献

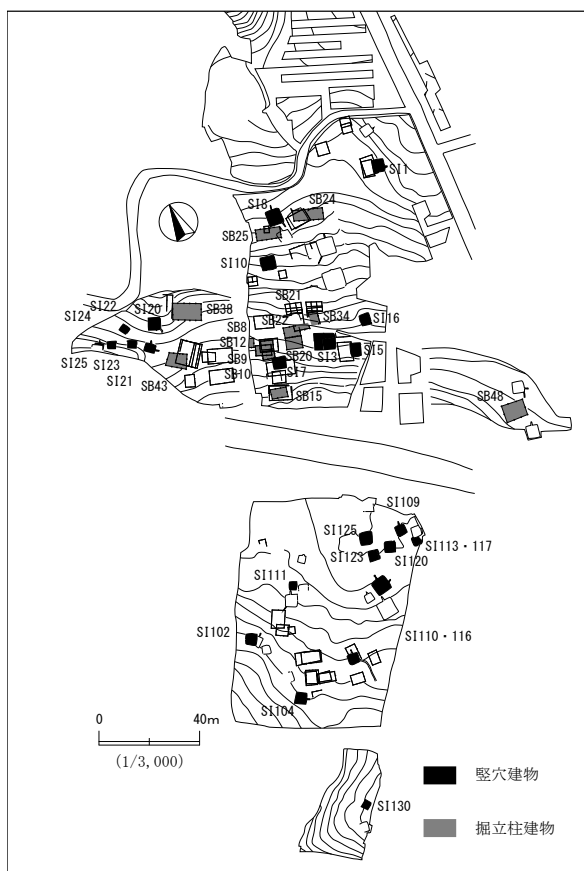
- 1 宮城県教育委員会 1987「郷楽遺跡・天神台遺跡」『宮城町西館跡、利府町郷楽・天神台遺跡』宮城県文化財調査報告書第123集
- 2 宮城県教育委員会・利府町教育委員会 1990『利府町郷楽遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第134集・利府町文化財調査報告書第5集
- 3 利府町教育委員会 1995『郷楽遺跡Ⅲ』利府町文化財調査報告書第10集
- 4 村田晃一 2022「陸奥国中部における古代の館と有力者居宅（1）―大衡村亀岡遺跡の再検討を糸口として―」『宮城考古学』第24号 宮城県考古学会



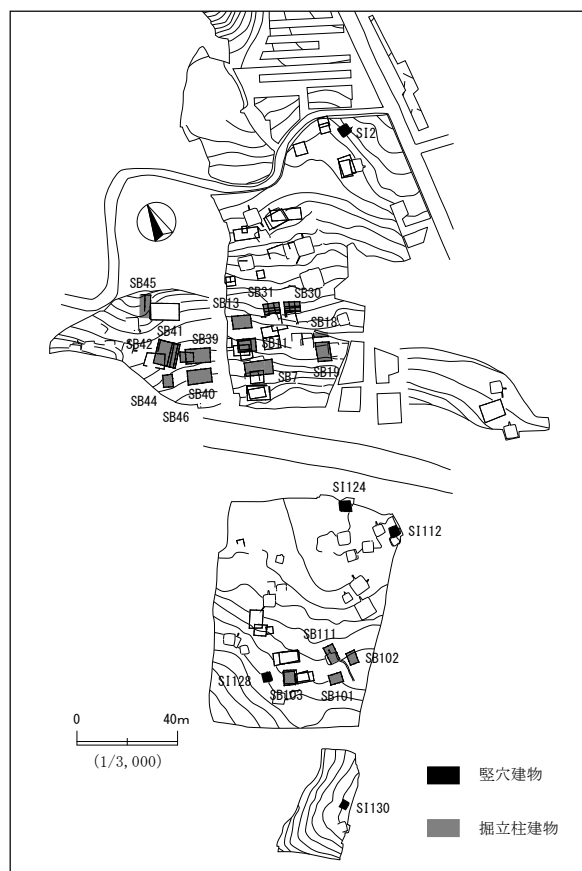
第3図 I期遺構群



第4図 II期遺構群

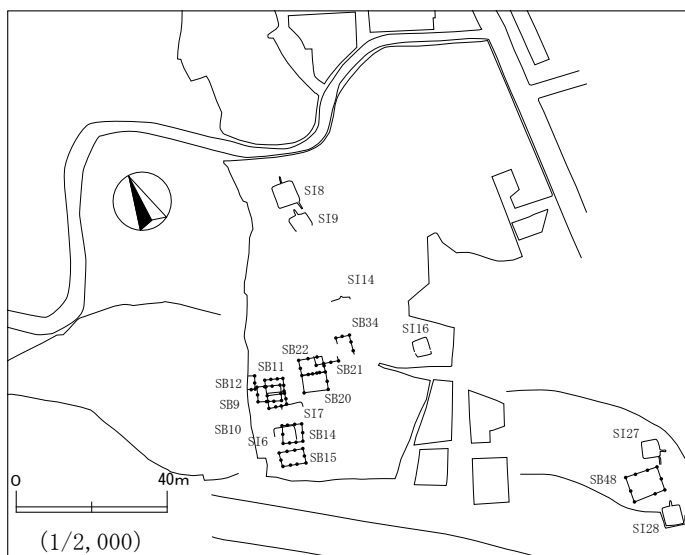


第5図 III期遺構群

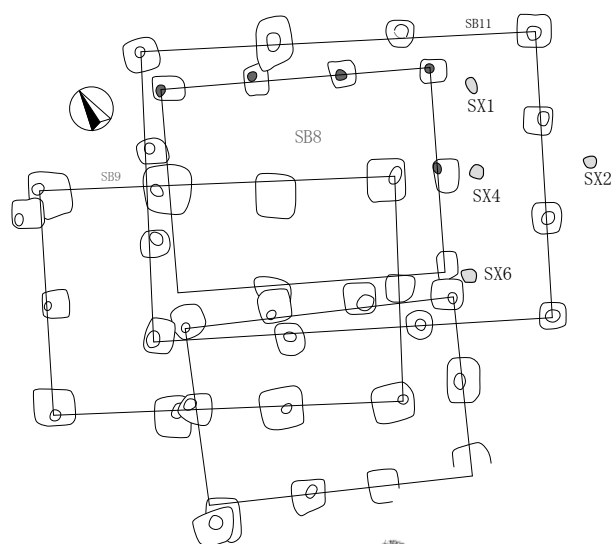


第6図 IV期遺構群

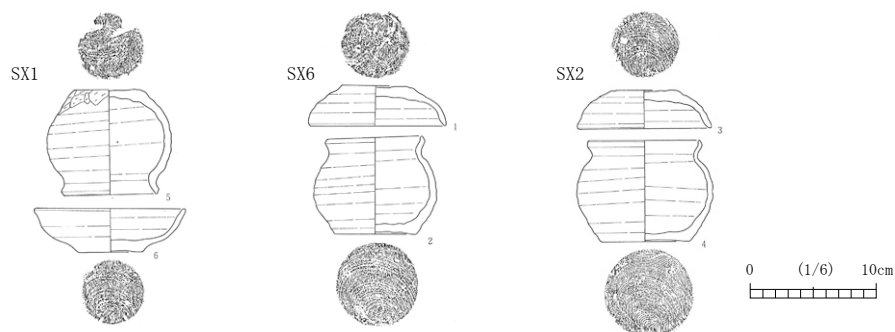
(第3～6図は、文献1～3をもとに作成)



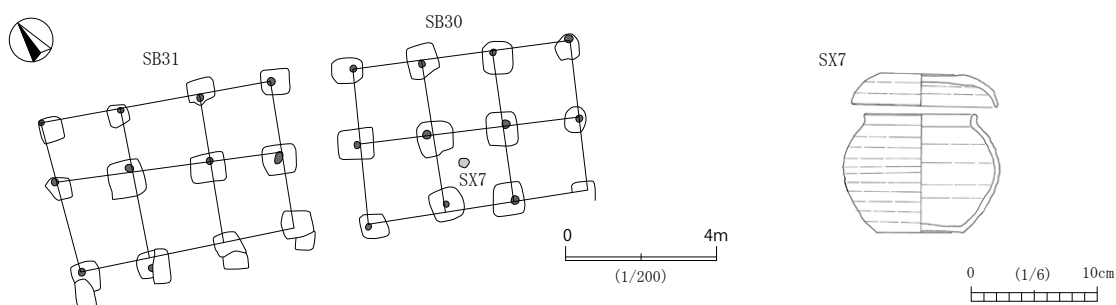
第7図 III期の掘立柱建物の配置



0 4m
(1/200)



第9図 SB8と土器埋設遺構・出土遺物 (文献1から作成)



第8図 IV期の掘立柱建物の配置

(第7・8図は、文献4をもとに作成)

第10図 SB30と土器埋設遺構・出土遺物 (文献1から作成)